

活動 自然探索

散歩先で様々な秋の植物を見つける。自然物を遊びの中に取り入れる。

準備したもの 絵本、写真、ままごとセット、糸等

○活動内容

散歩先で秋の植物を拾い、見立て遊びや製作に取り入れていく。

○保育者の問いかけやアプローチ

春の活動の際には、ページ数が多い図鑑を置いていたことで、探すまでに諦めてしまう子の姿が多かったため、今回は環境に、秋の自然の絵本やどんぐりの写真を置いておき、拾ってきたものをすぐに照らし合わせて見れるようにした。グループタイムでもその絵本を取り入れながら、「まぼっくりはどんどこころにあるんだろうね?」「同じ形のどんぐり見つかるかな?」等、子ども自身が考えられるようにして、期待をもって散歩へ行くことができるようにしていった。園庭遊びでは、拾ってきたものをどのようにして使って遊びたいかを問いかけ、子どものイメージしたことを大切にしながら、様々な表現が出来るようにしていった。

○子どもの様子

拾う際に、大きさを比べていたり、たくさん落ちている個所とそうでない箇所があることに気づいたり、色の違いに気づく姿があった。「これでお料理できそう!」と拾った物で遊ぶことを考えている子もいた。何度か散歩に行ったが、「この前より、たくさんどんぐり拾えたね!秋になったからかな?」と“秋の植物”ということを理解している子もいた。拾った後に、絵本を見ながら見つけたどんぐりと、見つからなかったどんぐりを発見した子もいた。松ぼっくりでクリスマスツリーの製作を行なった際には、「松ぼっくりは小さいから、(小さくて)可愛いツリーになったよ!」と、言う姿も見られた。



振り返り

松ぼっくりひとつでも使い方は様々で、ままごとで料理の飾りつけにする子や、宝探しの宝にする子がいたり、中には鱗片を剥がすことを楽しみ、剥がす時の感覚や音がすることに注目したりする姿も見られ、それぞれ視点が異なっていた。ままごとでの料理では、もっと沢山の自然物があると、子どものイメージが膨らむのではないかと思うので、次回は、子ども達と自然物を使ってどのようなことをしたいかを事前に聞いてからどれだけ必要かを一緒に考えていきたい。また、子ども達の遊びを広げていくために、戸外だけでなく、室内でも自由に使うことが出来るような環境にしていけると良かった。